

'17.3

毎月1回20日発行 定価 1部60円
発行人 兵庫県商工会連合会
代表者 志智宣夫
発行住所 神戸市中央区花隈町6番19号
☎078(371)1261㈹ 〒650-0013
http://www.shokoren.or.jp/
編集人 足立誠
印刷所 有限会社 浜田デザイン写植
会員の購読料は会費に含んでおります

第715号

兵庫県 商工連会報

(題字は井戸知事)

Hyogo Prefectural Federation of Societies of Commerce and Industry

平成28年度 スローガン

商工会は行きます 聞きます 提案します



▲経営支援事例発表全国大会で力強く発表する後藤泰樹氏

Contents

■県連会Letter 2~3頁

- 特別対談
多可町商工会から地域経済を盛り上げる
～小寺会長×後藤経営支援課課長～

■小規模事業者持続化補助金 採択企業レポート(第4回) 4頁

■商工会Letter 5~6頁

- ・地域活力増進事業 あきんどゼミ (川西市)
- ・グッドデザイン賞2016 住宅・住空間部門
県内商工会員2事業所が受賞
…(宍粟市・丹波市)
- ・第11回しんぐう楽市楽座 ……(たつの市)
- ・第7回太子町マーケット ……(太子町)

昨年12月8日、TKPガーデンシティ竹橋(東京都)にて開催された経営支援事例発表全国大会において近畿ブロック代表として「事業所と共に走る! 金属資源再生業の新たな挑戦支援」と共に夢見る良き伴走者を目指して、「戦支援」と題して発表した多可町商工会の後藤泰樹氏が最優秀賞を受賞した。

多可町商工会は積極的な事業所支援により県内でも有数の成果をあげている。今回の発表はその素晴らしい取り組みが全国に周知される機会となつた。

多可町商工会の支援方針や地域との関係性について、多可町商工会会長・小寺博史氏と経営支援課課長・後藤泰樹氏にインタビューし、その秘密に迫つた。

(詳細は2~3頁)

小寺会長×後藤経営支援課課長

特別対談

特別対談

多可町商工会から地域経済を盛り上げる

～小寺会長×後藤経営支援課課長～



天崎…今回インタビューを務めます天崎です。まず、商工会の在り方についてどのようにお考えか。そして職員にどのように浸透させて実践に結び付けているのかこの辺りから小寺会長、後藤課長にお話を伺おうと思います。

後藤…多可町商工会は合併時に「支所を置かない」とする合意が旧3町でなされました。このため、3つのポイントに重点を置いています。1つ目は会員にとつて「遠くなる」「行きにくくなる」というご不便をおかけしないよう巡回を徹底すること、2つ目として経営支援機能を強化することです。当然地域振興事業も重要ですが商工会の本質は会員の事業支援、会員が儲かることが私たちの使命です。そして3つ目は安定した仕事をするためには土台をしつかりさせるということで、共済の増強等自主財源の確保にも取り組んでいます。

小寺…合併の過程で合併委員会や協議会などで「支所は必要だ」という意見もありました。が、「巡回指導と経営支援機能を強化し、会員には絶対迷惑をかけない」という理念が理解された結果、支所を置かずして合併できました所が大きいと思います。

『行政との関係性』

天崎…多可町商工会の特筆すべき点として行政との関係性が挙げられると思います。その点も一つの成功要因だと思います。その点も

が。

小寺…そうだと思います。出来るだけまことに町へ情勢を報告し、補助金も無理を言つてお願いをする中で「商工連携室」という部署を作っていました。

天崎…今年度の4月ですね。商工連携室が出来たのは。

後藤…そうですね。経営発達支援計画が採択された一昨年11月の末に町長室に小寺会長をはじめ商工会役員で説明に伺つたのですが町長から「これは商工会による地方創生プランですね。行政も5年計画でプランをまとめて実施に向けて動いています。今後は力を合わせてやっていきましょう」という力強いお言葉をいただきました。まさに行政と商工会の連携について双方のトップが再確認したと感じました。そうした土壤を作つていただきのも会長のお力で、会長の傘のもと積極的に発言をし、それを受け止めていただけの町長がいらっしゃることは非常に大きかったです。

きいと思います。行政の意識も段々と変化し、町におかれましても地域経済のことに関しては商工会の力を借りたいという意見も出始めました。

『支援の線引き』

天崎…会員に対して自主性を促す働きかけをどう線引きしていくのでしょうか。また職員の皆さんが支援する上で商工会内部の体制や仕組みはどうなのでしょうか。



▲県連合会主任チーフアドバイザー 天崎氏

小寺…多可町商工会は伝統的に会員に対する税務・申告指導で優しすぎる傾向があるようです。うちの原田事務局長がよく言つているのは「指導と面倒を見る」というのは違う。主体はどこにあるのかということは、はつきりさせるべきだ」と。全てを丸抱えると組織率は上がるかもしれませんのがそこは事業の進捗とともに良識を持っていただか

ないと職員の負担が増える一方で、持続化補助金等を頑張っていますが、徐々に会員が出来るだけ申請書も報告書も書ける力が身に付くよう指導をしていこうと考えています。商工会は便利屋ではなく指導機関であるべきですからね。

後藤…職員としては会員のステージに合わせて支援をしています。事業計画書を作ったことがない、パソコン操作も不得意である方には最初手厚く指導をしますが、2年目、3年目の方には自分でやるようにステップアップの指導をしています。事業計画も然りですし、税務申告もそうです。自分が自分でやることを仕組化しているこうと思っています。

天崎…知恵の見える化と共有化ですね。最近では会員同士が教えあうという動きもあるのですか?

後藤…そうですね。例えば未来創造実践部の活動です。

小寺…未来創造実践部では、お互いに講師を務め自分の事業や成功例を皆に報告することが慣習化していますね。内容がどうであれ皆さんの中で話すというのは素晴らしいことです。

天崎…お互いが切磋琢磨し合って成長していく。本当に良いと共に成長していく。本当に良い

A portrait of a middle-aged man with dark hair, wearing a dark suit, white shirt, and striped tie. He is seated at a wooden desk, looking slightly to his right with his hands clasped. The background shows an office environment with desks, papers, and a lamp.

▲後藤経堂支援課課長

2年目、3年目の方には自分でやるようステップアップの指導をしています。事業計画も然りですし、税務申告もそうですが自分でやることを仕組化していると思っています。

天崎…知恵の見える化と共有化ですね。最近では会員同士が教えあうという動きもあるのですからね。後藤…そうですね。例えば未来創造実践部の活動です。

ないと職員の負担が増える一方だと思います。後藤課長を先頭に持続化補助金等を頑張つてますが、徐々に会員が出来るだけ申請書も報告書も書ける力が身に付くよう指導をしていこうと考えています。商工会は便利屋ではなく指導機関であるべきですからね。

ようになろうと考えてくれていて、
るようになります。後は日々の
業務においてCCが中心となつて
て「あの事業はどうなつていてる
か」と進捗状況確認と軌道修正
を行い、遅滞なく着実に進むよ
うにという工夫はしています。
加えてツールですね。経営支援
計画書なる多可町商工会独自の
様式があり、重点支援先と決め
た事業所さんの支援計画を立て

習慣が根付いているのですね。チーフコーディネーター（以下CC）が2人いらっしゃいます。CCがすごく機能していることが、成功要因ですね。

『多可町商工会の自慢』

天崎…なるほどね。これは私の個人的な考え方ですが、商工会には口伝え文化が残っていると感じます。しかしそれはその人の力量や意欲に左右されてしまう。不公平感を生んでしまう要因だと思います。その点で後藤課長がおっしゃったように知恵の目見える化は非常に大事ですし、アップデートも常にされている。次世代を視野にいれた取り組みと計画が認定された1つの要因ですね。認定を受けたからこそ、そういうふた視点や行動になつたのかなと。以前からさせていたのでしようがそのスピードが増

てそれに基づいて支援をしていくといふものなのですが闇雲にやるのではなく支援者のPDCが回せるツールを活用していくます。後は若手職員の育成のためのマニアル関係、税務、労務といった指導上に必要なマニアルをデータベース化し、新しく得た知識や、気づいたことを蓄積しています。まだ途中ですが異動しても新人が来た時でもそれを見ながら出来るよう仕組化していくこうと思っています。



▲小寺会長

県連からのコメント

平成26年6月に小規模企業振興基本法が制定され、小規模支援法も併せて改正された。基本法の成立により商工会には伴走型支援や小規模事業者の実情や課題に沿った対応と共に、それを可能とするための「経営発達支援計画」の策定が強く求められている。

マンパワー不足が叫ばれる中、多可町商工会では会員と職員の関係性の構築に加えて行政や地域との連携を図ることにより、内容の濃い支援を可能とし、成果を上げている。他の商工会でも是非参考にしていただき、今後の支援に役立てていただきたい。

業務が多く無理もさせられないのですが、「あきらめの悪い支援」をどんどん実行していこうと思っています。自分が途中でくじけないよう、「あなたがあきらめない限り私たちは絶対あきらめないですよ」というスタンスですね。その感じは意識してやつてありますね。

◆小規模事業者持続化補助金採択企業レポート〈第4回〉(全5回)

カラーリングの新技術を導入し 客単価アップを実現

川西市商工会×株式会社 献祥 Faith



▲藤原経営支援員と後継者と経営者である岡田親子



▲店舗の外観

平成27年度補正予算小規模事業者持続化補助金の採択を受けた県内の会員企業を紹介するシリーズ4回目は、川西市の美容室「Faith」だ。商工会のアドバイスを受けて自社の現状を把握し、問題解決の糸口を探り、新技術の導入によつて客単価のアップにつなげた事例を紹介する。

昭和54年創業。美容室「シクラメン」として地元に密着した営業を続け、平成11年に、美容室「Faith」と屋号を変更。店舗は、阪急川西能勢口駅から徒歩5分ほどの便利な場所にある。

支援に至った経緯

顧客の高齢化に伴う売上げの減少と、従業員が定着しないという問題に危機感を募らせた後継者・岡田織さんは、創業者である父が会員だったこともあり、初めて川西市商工会を訪ねた。

そこで専門家派遣制度を利用して、職場環境を改善するために就業規則を作成した。

次に商工会で開催された持続化補助金のセミナーに参加。事業計画書の作り方を具体的に学んだことで、経営方針や事業計画をまとめようと、川西市商工会の支援を受けることになった。

企業概要

高齢者が長時間、同じ姿勢を保つことが苦痛であるため、今まで頼んでいたカラーを頼まずカットだけとなり、客単価が下がっていたことがわかった。

その対策として、売上増加を図るために、既存顧客と新規顧客、二方向からの対策を考え、前回の持続化補助金の採択では、短時間でカラーができる新技術を導入した。

この取り組みで作業時間が短くなり、その余剰時間でお客様からじっくりヒアリングし、スタイル提案ができるようになつたことで、客単価は1,000円上がつた。

◆第2回目の取り組みと成果◆

◆第1回目の取り組みと成果◆

担当の藤原経営支援員は、客単価の減少について、売上と年齢層の関係を数字で把握することを提案。集計した結果、50代以上が60%を占めることがわかった。

高齢者が長時間、同じ姿勢を保つことが苦痛であるため、今まで頼んでいたカラーを頼まずカットだけとなり、客単価が下がっていたことがわかった。

その対策として、売上増加を図るために、既存顧客と新規顧客、二方向からの対策を考え、前回の持続化補助金の採択では、短時間でカラーができる新技術を導入した。

この取り組みで作業時間が短くなり、その余剰時間でお客様からじっくりヒアリングし、スタイル提案ができるようになつたことで、客単価は1,000円上がつた。

長い目で見て、今何をすればいいかを常に考えている」という岡田さんに、的確なアドバイスをする藤原経営支援員。お互いにアイデアを出し合う前向きな関係が、よい結果につながっていると感じた。

（取材／県連合会チーフアドバイザー松田記子）

「長い目で見て、今何をすればいいかを常に考えている」という岡田さんに、的確なアドバイスをする藤原経営支援員。お互いにアイデアを出し合う前向きな関係が、よい結果につながっていると感じた。

（取材／県連合会チーフアドバイザー松田記子）

藤原経営支援員からの一言

問題点が整理できたからであります。平成29年度は新たな目標を立てられ行動を既に始めている。商工会としても、今後も目標を達成できるように支援していきたい。

うちには、従業員の意識も変わり、前向きな提案ができるようになりました。時には社内勉強会を開催するために、閉店時間を早めてその分勉強にあてた。

「藤原さんには、丁度いい距離感で、かゆいところに手が届く支援をしてもらっています。一人ではできなかつたことです」と岡田さんは振り返る。

店舗内を見ると、シャンプー部屋

◆持続化補助金を受けて◆

岡田さんが持続化補助金のために策定した経営計画を従業員と一緒に取り組む

企業基本情報

【企業名】株式会社 献祥 Faith
【所在地】兵庫県川西市小花1-14-18
【創業年】昭和54年
【資本金】1,000万円



藤原経営支援員からの一言

就業規則の作成、持続化補助金の取り組みを通して、積極的な営業活動をするようになつた。



▲イタリアワイン飲み比べ講座

講座内容の満足度も高く、不満と回答した講座は無かった。受講生は、お店や店主に対してもがるような回答も得ることが出来た。

「お客様にもっと喜んでもらいたい！お店の魅力を伝えたい！」そんな想いを実現するべく会員事業所・お店が講師となり、プロならではの専門的な知識や情報、コツなどを無料で受講者にお伝えする少人数制のゼミを平成26年度から取り組んでいる。

今年度は、32店舗で実施した。受講生の約85%が、『利用したことが無いお店』又は『数年間足が遠のいていたお店』だったのを顧客の掘り起しや、来店のきっかけづくりが出来た。『事業所の雰囲気が分かつて良かった』『家族でまた来たい』など来店に繋がるような回答も得ることが出来た。

地域活力増進事業 あきよどり

事業報告

川西市商工会

プラスの印象を抱いたようで、ファンづくりのきっかけとなつた。口コミも寄せられており、講座に繋がったケースが多くあつた。受講生の満足度を高めるためにアンケートを参考にし、講座を組む工夫がみられ、P D C A サイクルの機会創出に繋がった。

来年度は、キッズを対象にしたゼミを拡充し、店の魅力をさらに伝えていきたいと考えている。

兵庫県中小企業就業者確保支援事業

若手社員の奨学金返済支援を行う 中小企業に助成します

若手社員の確保は、中小企業にとって重要な課題です。一方で、大学等卒業後に奨学金の返済が負担になっている若者も多くなっています。

そこで兵庫県では、中小企業の人材確保や若年者の県内就職・定着を図るため、若手社員の奨学金返済を支援する中小企業への補助制度を創設しました。

この機会に、若手社員のための奨学金返済負担軽減制度を設け、若手人材の確保や定着にご活用ください。

詳しくは、
兵庫県ホームページ (<http://web.pref.hyogo.1g.jp/sr/04/shogakukin.htm>)
(-財)兵庫県雇用開発協会ホームページ (<http://hyogo-koyokaihatsu.or.jp/>)をご確認ください。
補助申請先・問い合わせ先 (-財)兵庫県雇用開発協会
〒650-0025 神戸市中央区相生町1-2-1 東成ビル3階
電話078(362)6583 FAX078(362)6613

グッドデザイン賞
2016の住宅・
住空間部門で県内
商工会員2事業所
が受賞した。

◆株山弘(宍粟市)
山採りの木を使つ
た庭"はりまの杜"と建物の一体感ある住居提案で受賞。

◆株吉住工務店(丹波市)

併用住宅(オフィス+住宅)
「保月の家」で受賞。(保月は地名)
農村部の衰退が進む中、新しい農業の起点となる住宅兼事務所として、自然と溶け合った生活提案。自然の風景と一体となるように開口部などを工夫した。



▲四季を感じる庭との
一体感のある住まい

住宅には下地材に至るまで地元産木材を使い、大きな開口部から見える地元の山から移植した緑で四季を感じる。受賞となつた住まいはまさに地元・播磨の里山を感じる住まいである。

グッドデザイン賞2016 住宅・住空間部門 県内商工会員2事業所が受賞



▲日本らしい豊かさを感じる住まい

受賞となつた土間や縁側など住まいと風景との中間領域のあらぬ美しく日本らしい住まいは『豊かさとは何か』が実感できる住まいである。

3月のこよみ

- 1日(木) 関西学院大学との産学連携調印式
- 3日(土) 人事調整委員会
人事管理委員会
- 13日(月) 事業委員会
- 15日(水) 第2回正副会長会
- 17日(金)~18日(土) CO研修会
- 23日(木) 労働環境対策事業審査委員会
- 24日(金) 第5回理事会
及び臨時総会

- 24日(金) 第2回共済事業委員会
- 29日(水) 第2回チーフアドバイザー連絡会

4月のこよみ

- 20日(木) 青年部通常総会
- 25日(火) 商工青年同友会通常総会
- 27日(木) 女性部通常総会

—ひょうごの中小企業を補償でサポート！—

商工会の共済事業として会員の福利厚生をお手伝いする



ひょうご共済
兵庫県共済協同組合

〒650-0011 神戸市中央区下山手通6丁目3-28
兵庫県中央労働センター4階
078-361-8080 www.ken-kyosai.or.jp

節目を越えて、新たなスタート

第11回 しんぐう楽市楽座

3月12日(日)開催

たつの市商工会

たつの市商工会青年部（作本卓也部長）では来たる3月12日、たつの市観光協会新宮支部と共に主催で、「新宮へ人を呼び込む」をテーマとして、「第11回しんぐう楽市楽座」を開催する。

しんぐう楽市楽座は、県内の観光協会や商工会青年部、地元・隣接地域の事業所などと協力し、各地域の特産品を一堂に集め、市民や近隣地域の住民が手軽に

試食や購入することが出来る物産展となっている。過去の試行



▲ご当地キャラがお出迎え

錯誤から今では、西播磨に春を告げるイベントとして親しまれおり、恒例となつた「ご当地キャラ大集合」を目当てに来場される方も増え、たつの市内外問わずに一体感を生み出すと共に貢献する事業へと成長した。

昨年度には10周年という節目を迎える、出店数など様々な面で過去最多を更新したが、今年度の第11回を新たなスタートと捉え、拡大路線で成長してきた当事業の「質」の面を吟味した計画を行つている。

普段食べられない各地域の名

は、出店メンバーの新商品や新サービスの評価や、マーケット当日の出店レイアウト等のアドバイスを行う等、本事業に大きく貢献している。



▲大勢の来場者で賑わう会場

太子町商工会高井國昭会長は、1月22日、太子町立文化会館「あすかホール」に於いて「第7回太子町マーケット」を開催した。

太子町商工会会長は、多種多様な業種の会員事業所を集め、町内外の消費者への認知度アップを図るとともに、新商品や新サービスのPRの場として、また、事業主のやる気を向上させることを目的としており、

当初は产学研連携事業として企画され、今年からは異業種交流事業の一環として実施している。

今回は、異業種交流メンバーの26店舗が参加し、自慢の商品やサービスのPRを積極的に行つた。

今回で7回目となる本事業は、また、スタンプラリーや子供向けイベントも併せて開催することにより、過去最高の来場者数を得ることが出来た。



▲今年も多数の事業者が出店した

兵庫県立大学の教授とゼミ生は、出店メンバーの新商品や新サービスの評価や、マーケット当日の出店レイアウト等のアドバイスを行う等、本事業に大きく貢献している。

確実にやるのは
どこでもできる。
確実に速くやるからこそ
「価値」になる。

三井住友銀行
LEAD THE VALUE
三井住友フィナンシャルグループ

